

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2690600057
法人名	医療法人三幸会
事業所名	ケアサポートセンター市原野
所在地	〒601-1123 京都市左京区静市市原町1223番地の69 (電話) 075-741-3110

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年5月17日	評価確定日	平成22年7月30日

【情報提供票より】(平成22年4月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	8.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(30 万円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	750 円	おやつ	150 円
	または 1日あたり 1800 円			

(4) 利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人寿尚会洛陽病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

左京区の北部、鞍馬に近い市原野の高台にある新築のグループホームである。ホームからは遠くの山なみや町をみることができ、日中でも静かな環境である。2年かけて準備をし、地域住民への説明会を開き、内覧会には100人近い人が訪れ、利用もすぐに定員になった。ホームは住宅街にあるが、地域住民との関係は町内会に加入できたが運営推進会議への参加などは今後の課題である。家族は面会も多く、交流会も開催され、信頼関係が構築されつつある。30歳代から50歳代の職員は介護福祉士も多く、経験者も多い。職員ミーティングを毎月実施し、運営、利用者のケースについてじっくり話し合っている点、ケア記録に利用者を観察し表情や発言をリアルに書いている点、ヒヤリハット記録を詳細に書き、要因分析をしている点などがこの事業所の良い点である。開設1年が経ち、一定の基礎づくりができています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は第1回目の受審である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員会議で管理者が書いた自己評価票を見せ、評価の意義について話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、地域包括支援センター職員、地区社協事務局長がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残され、記録は全家族に送付している。事業所からはいねいな報告がなされ、メンバーからの意見をもらっている。地域情報の交換もできている。インフルエンザ対策や町内会の人々がメンバーに入ったほうが良い、家族の意見を聞く会をつくれば、などの意見をもらって対応している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議の終了後には家族が残って交流会をしている。お互いの悩みを話し合っ、交流が深まっている。いつも7~8家族が参加されている。ホームの中や外に緑を増やしてほしいという意見があり、プランターに花を植えたり、野菜を育てたりしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設時の内覧会には100人近い人が来訪してくれている。町内会に加入しており、回覧板がまわってくる。近くの学校の先生の妻が花屋さんなので花をもって来訪してくれる。近くの子どもたちが遊びにきてくれる。中学生の職場体験チャレンジ学習を受け入れている。区民運動会に参加している。近くの川島織物でのイベントや特養市原寮での管弦楽や合唱団の公演を聴きに行っている。老人会のサロンに参加している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	開設にあたり、職員が話し合ってグループホームの独自の理念を作成している。それは法人の理念を踏まえ、地域密着型事業所のあり方をふまえたものとなっている。ホームの玄関に掲示し、広報誌に掲載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は自分たちで考えた理念を大事にしており、職員側の都合ではなく、利用者の気持ちや行動を大切に接したいということと、家庭的な暮らしになるようにしたいと考えている。自分や自分の親が入りたいグループホームにしたいという思いである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時の内覧会には100人近い人が来訪してくれている。町内会に加入しており、回覧板がまわってくる。近くの学校の先生の妻が花屋さんなので花をもって来訪してくれる。近くの子どもたちが遊びにきてくれる。中学生の職場体験チャレンジ学習を受け入れている。区民運動会に参加している。近くの川島織物でのイベントや特養市原寮での管弦楽や合唱団の公演を聴きに行っている。老人会のサロンに参加している。		
認知症					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は第1回目の受審である。今回の自己評価については、職員会議で管理者が書いた自己評価票を見せ、評価の意義について話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センター職員、地区社協事務局長がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残され、記録は全家族に送付している。事業所からはいい報告がなされ、メンバーからの意見をもらっている。地域情報の交換もできている。インフルエンザ対策や町内会の人々がメンバーに入ったほうが良い、家族の意見を聞く会をつくれれば、などの意見をもらって対応している。	○	運営推進会議は事業所と地域との連携が大事な課題であり、町内会会長、民生委員、老人福祉委員、隣家の人など、地域の人をメンバーに入れることが望まれる。また近くの小中学校の校長先生やPTAの会長、保育園園長、農協店長、消防署長等々、ゲストメンバーに入ってもらってはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	左京区の担当者とは連絡をとっている。左京区内の介護保険サービス事業所連絡会に参加し、情報交換している。地域包括支援センター主催の認知症サポーター研修が開催され、講師として協力している。		
4.理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週来る人から隔月に来る人まで、家族の面会は多く、その際に情報交換している。広報誌は1回発行している。事業所が撮った写真はあげている。	○	家族には面会時に情報交換するだけでなく、毎月利用者の様子を書いた便りを出すなどして、利用者の様子を知らせるとともに、家族との信頼関係をさらに良くすることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の終了後には家族が残って交流会をしている。お互いの悩みを話し合っ、交流が深まっている。いつも7～8家族が参加されている。ホームの中や外に緑を増やしてほしいという意見があり、プランターに花を植えたり、野菜を育てたりしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は新規事業所の立ち上げが続いており、この1年職員の法人内異動があり、退職もあったが、利用者へのダメージはそれほどなかった。退職を防ぐために、残業はない、希望休などに対応、職場内を話しやすい雰囲気にするなどの工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の事例検討の研修、認知症ケア高度化推進事業の研修等の外部研修を受講し、報告書をのこしている。事業所内の勉強会は認知症、感染症、食事、救急対応、疾病、プライバシー等の研修を計画している。職員の資格取得についての支援はないが、取得後の手当てはつく。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム協議会に参加し、情報交換している。ブロック会議での研修にも参加しているが、管理者のみである。職員は他のグループホームを見学していない。	○	職員も他のグループホームをいろいろと見学し、その職員と交流することによって学ぶことは非常に大きいので、研修の一環として計画することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては利用者と家族にホームに来院してもらい、時間を過ごしてもらっている。その際に利用者と家族にじっくり話を聞き、利用者が希望しない場合はやめている。グループホームについてよく知らない家族が多いと感じている。利用が決まると、利用者が家で使っていたものなるべくたくさん、もってきてもらうように家族にお願いしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は認知症であろうとも人としてのあり方は変わらないなど、認知症についての学びをしている。人としてのマナーや学んだり、対等の人間関係として悩みを相談したりしている。利用者とは対等なおつきあいと考えている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と家族に面接し、医療情報、介護保険サービス利用情報等を把握し、記録に残している。出身地、両親や兄弟のこと、結婚前の仕事、夫の仕事、子どもの情報等、生活歴を聴取し、記録に残している。趣味や好きなことも書かれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画はケアマネジャーが立てており、生活の楽しみも入れたものになっているが、生活歴や好きなこと等の情報の反映がない。また利用者ごとに個別の介護計画になっていない。	○	利用者の生活歴や趣味、好きなこと等の情報を反映し、身体介護だけでなく、生活のなかの楽しみや役割をふくめた介護計画にし、具体的な計画であることが望まれる。またより良い介護計画にするために、利用者や家族、職員などのアイデアを取り入れることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録は介護計画の項目に沿って記録されており、介護の実施とその際の利用者の発言や表情が生き生きと書かれている。計画のモニタリングはケアマネジャーが毎月項目ごとに実施している。カンファレンス会議は毎月職員が参加して実施しているが、介護計画の項目にそった記録になっていない。	○	ケース記録は観察だけでなく、ケアの拒否があったときなどは考察を記録すること、カンファレンス会議は介護計画の項目にしたがって話し合い、記録に残すこと、モニタリングには職員の参加を求めること、計画の見直しにあたっては再アセスメントを実施し、記録に残すことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の理容や美容は訪問理美容が隔月に来訪するので、それを利用している。本の好きな利用者をつれて本屋に行き、購入を支援している。近くの川島織物の公園などを利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の従来のかかりつけ医を大事にし、定期受診は家族にお願いしているが、時には、また緊急時には職員が同行している。毎週看護師が来訪し、利用者の状況を観察し、点検しており、受診時には看護師意見書としての情報を医師に提供している。歯科医の往診も可能である。認知症専門医との連携もとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しており、管理者は最期までお世話したいという思いをもっている。この方針をもって家族には説明しているが同意書等はとっていない。職員との話し合いはできていない。	○	重度化対応については、まず職員間で考え方を共有し、対応する場合はマニュアルの作成と職員研修が欠かせない。早急に職員の意思統一、マニュアル作成、研修を実施することが望まれる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は中から鍵をかけることができ、かける人もいる。トイレも鍵をかけることができる。トイレ誘導などの声かけには十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の起床は6時前から起きる人もあり、8時前まで寝ている人もいる。就寝も夕食後すぐに部屋に引き上げる人もおり、毎日自由である。散歩に行きたいなど、利用者の声があると、可能なかぎり支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら職員が交代で献立をたて、食材は農協から配達してもらっているが、足りない分は買物に行く。調理、もりつけ、配膳、後片付けなど、利用者と一緒にしている。時にはなべ料理もある。職員も同じものを一緒に食べながら、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室はユニットバス、週2回の入浴を目標にしているが、希望すれば、また夏季などは毎日の入浴ができる。ゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる人は野菜の皮むきや盛り付け、配膳、掃除、洗濯物たたみ等の役割を果たしている。歌、ボール体操、嚙下体操、福笑い、百人一首、カルタとり、ちぎり絵、花や野菜を育てる等を毎日の生活のなかで楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ毎日のように、近くのお寺などへの散歩をしている。利用者の買いたいもの、化粧品などの買物にも出かけている。花見や紅葉狩りなど、季節ごとのドライブをしている。近くの特養市原寮で開催されるコンサートには招待されて出かけている。また近くの川島織物の公園で開催される区民運動会や餅つきに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉はなく、建物の玄関ドア、裏口等、施錠されていない。ホールからデッキにでることができ、そのまま外へ出られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器、スプリンクラー、防火管理者等、火災への備えができています。消防計画をたて、年2回の避難訓練を実施している。訓練には消防署の参加があり、夜間想定も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
5	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録が残されている。献立のカロリー値と栄養バランスについて点検されていない。	○	利用者の体調管理には食事は大きな要素なので、献立のカロリー値と栄養バランスについて点検し、記録に残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に花を植えたプランターを置いている。居間には食卓と椅子のコーナー、テレビの前に大きなソファをおいたコーナー、座椅子や座布団をおいた畳コーナーと、利用者の居場所が豊かに用意されている。大きなガラス戸から京都らしい柔らかな山なみが見え、洗濯物や布団を干しているデッキに出ることができる。居間にはエレクトーンを置き、CDを入れたケースや本棚などがあり、金魚鉢や生花、大きなぬいぐるみなどを置き、家庭的にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はたたみで、そこにベッドを置いている人とふとんで寝ている人がいる。パッチワークの敷物を敷いて座卓と座布団を置き、卓上には化粧品、鏡、くし、小さなぬいぐるみの犬を飾ったり、三面鏡、たんす、椅子等を持ち込み、能面や鬼の面を飾っている利用者もあり、居室はその人らしさに溢れている。		